地と橋　環境全体に住まう北方住宅

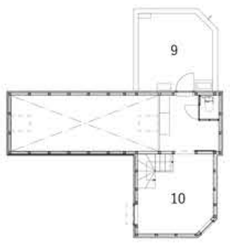
敷地という主体／共存するボリューム

建主とわたしは敷地を探した。街なかの喧騒から少し離れ、急な坂道を登った先にある山の上の閑静な住宅地の一角を、建主家族はみずからが生きる場所に選んだ。敷地は角地で見晴らしが良かったが、周辺のそれと比べると幾分小さめで、かつてそこにあった住宅がガレージを含む擁壁ごと解体されたため、敷地内に不自然な盛土が残っていた。北向きの盛土は、斜面であるがゆえに陽あたりがよく、近くの雑木林から野鳥が持ち込んだと思しき草木が茂る。普通なら敬遠されそうな敷地に広がる生命力溢れる野原はわたしたちを魅了した。

この時点で敷地は単なる建築の下地でもなければ、建築がどうこう料理する材料でもなく主体としてそこにある。だからその主体性を損なわずして、それとの関係を問い続け、都度新しい関係を発見していくような刺激と創造に満ちた世界をつくることが建築の目的だと考えた。

敷地と対話する契機となるのは、形・スケール・テクスチャを伴う建築のボリュームである。特に明確な断熱ラインが前提となり、かつ積雪や落雪を考慮すると不用意に軒や庇を設けられない積雪寒冷地においてボリュームは先鋭化する。ボリュームの構成自体が、敷地と共存するひとつの自立した環境となると同時に、それは周辺環境に働きかけ、環境と一緒に図を描く。敷地の主体性を支えているのは、高低差のある大地を治めるための擁壁や斜面の盛土、そしてそこに広がる野原である。野原には雨が流れ雪もかなり積もるから、そうした変化をその影響を直接受けずにずっと眺めていられるような場所が建築の主体性を支える。そのためにボリュームを浮かべた結果、野原には雨よけと日陰が生まれ、ずっと野原にいることもできるようになる。大きな気積を持つ浮いたボリュームは”橋桁”の外側に存在する野原や空、階段や続き間などのすべてを等価に繋ぎ止める、関係性の起点であり続ける。

隣地境界に盛土が残されている敷地



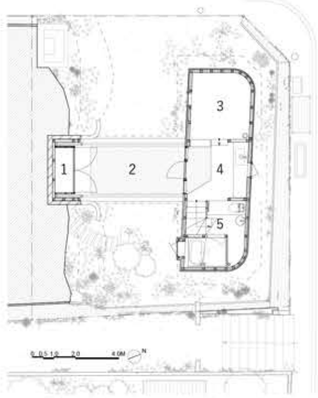
3 階平面図　S=1/200

配置図　S=1/4000

2 階平面図　S=1/200

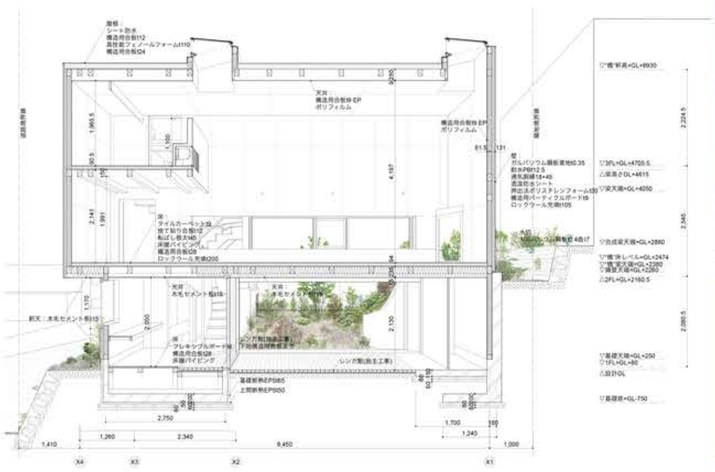
アイソメ図：敷地の高低差に架け渡された ,T 字型に積層するボリューム

建築概要
用途　専用住宅
主体構造・構法　木造在来工法
基礎　ベタ基礎
規模　階数　地上3階
軒高　7,750mm　最高高さ　7,900mm
敷地面積　160.23m2
建築面積　53.83m2(建蔽率33.60% 許容40%)
延床面積　115.75m2(容積率72.24% 許容80%)

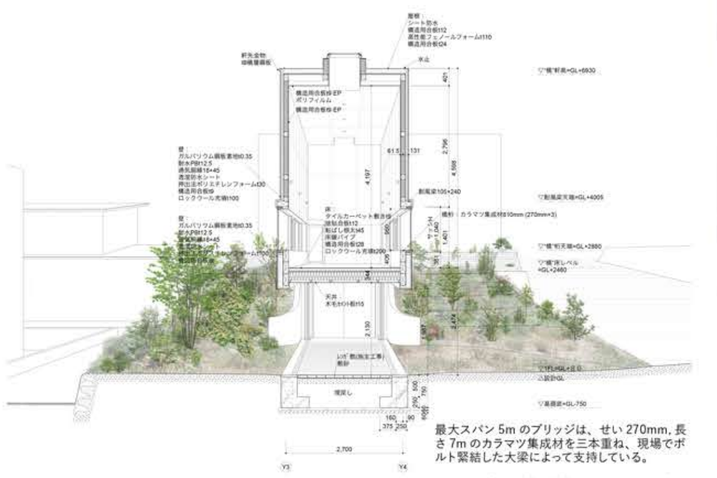


1 物置　2 ブリッジ下(風除室)　3 室1　4 玄関
5 洗面脱衣室　6 ブリッジ(リビング)　7 子供室
8 キッチン　9 バルコニー　10 主寝室

1 階平面図　S=1/200



ブリッジ長手断面パース　S=1/100



最大スパン 5m のブリッジは、せい 270mm, 長さ 7m のカラマツ集成材を三本重ね、現場でボルト緊結した大梁によって支持している。

ブリッジ短手断面パース　S=1/100

環境との関係を多様化する風除室

ブリッジ下の空間は、大きな引き戸の開閉によってその性質を大きく変える。
建具を全開放すると、建具は盛土側の戸袋に納まり、敷地全体がひとつながりの庭となる。建具を閉めると大きな室内 (風除室) になる。この柔軟な空間は季節や天候によってさまざまな使い方を許容する。
橋の下という、機能を想定されていない開放感を持ち、建具の開閉によって周辺環境との関係を大きく変えられる点において、一般的な風除室と一線を画す、積雪寒冷地の住宅における新しい空間が発見された。

建具全開

建具全閉

天井の高いブリッジの部分．せい 910mm のカラマツ集成材が橋桁となり，その上に高さを抑えた連窓を設えることで，自然と視線が庭へ向かうようにした．

玄関より風除室を見る．橋の下の舗装はレンガ敷き．玄関まで連続する．1 階の床仕上げはフレキとし，庭と連続してラフに使うことができるよう配慮した．

子供室からブリッジを見る．ブリッジは内外に貫通し，断熱ラインとの構成にズレを生む．耐力面材であるトドマツ合板は、白く柔らかな肌理を活かしてそのまま仕上げとした．浮いたボリュームのみ白い WP で化粧し，床の反射光の薄ピンクや野原の緑，冬の純白やライトグレーなど，環境の色を敏感に映す．

ブリッジの外装はガルバリウム鋼板の素地を使い，日照や温度変化に合わせてあえて皺ができるよう釘ピッチを調整した．日々変化する庭とともにある，柔らかい生き物のような表情を試みた．

柱を省略して壁に持たせている周り階段．階段の昇降に応じて庭の見え方が変化する．

3 階のホールがのぞくリビングの吹き抜け．窓の向こうに見える部分もまた自分の領域であるという奥行き感が，面積以上の広がりを住宅に与える．

東側俯瞰．1 階と直交するように 2 階ボリュームが載り，2 層分の白いボリュームを貫通する．厳しい北側斜線の影響もありボリュームは複雑化している．

ブリッジから 315mm 下がった室からは、ブリッジと地面がより立体的に感じられる．